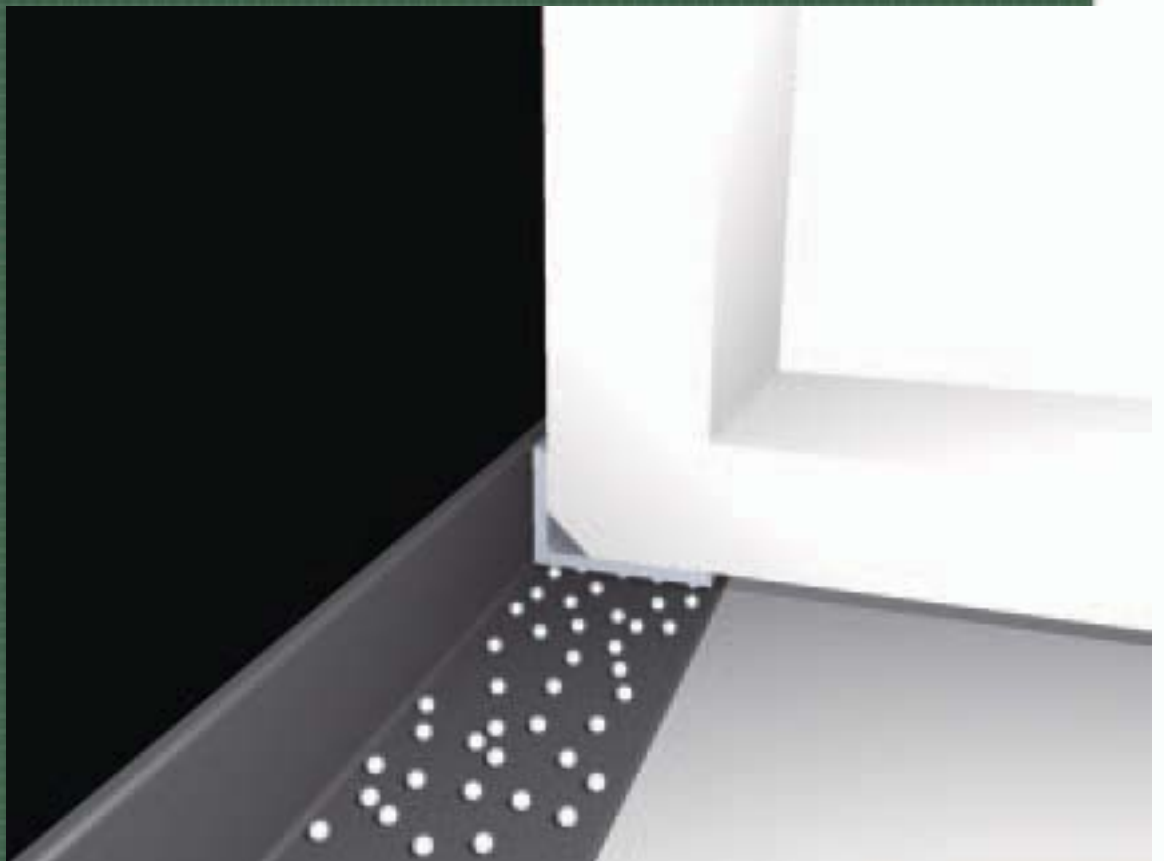


Multi slide

マルチスライド工法



マルチスライド工法とは

予め基礎コンクリートに埋設したレール表面へ鋼球を散布し、その鋼球上を滑走させることによりBOXカルバート等のコンクリート製品を敷設する工法です。鋼球散布前には専用粘着材を塗布し、鋼球の偏りを防止します。

マルチスライド工法の特徴

- ・高架橋・電線等の障害やクレーン移動の困難な場合に威力を発揮します。
- ・ボックスカルバート・自由勾配側溝・L型擁壁等広く適用が可能です。
- ・特殊な施工機械が不要です。
- ・専用粘着剤により縦断勾配 10%程度でも施工可能です。

施工手順(ボックスカルバートの設置)



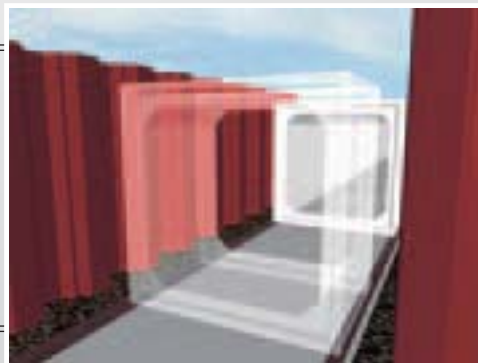
- 1 レール設置後基礎コンクリートを打設します。レール下面が基礎コンクリート打設高となるように調整して下さい。また、レール表面には保護テープを施しコンクリートの付着を防止して下さい。レールの設置が後の工程の作業性に大きく影響しますので、計画勾配となるよう入念に施工御願います。



- 2 レール表面に専用粘着材（コスモオクトール）を 1mm 程度の厚さで塗布し、鋼球を散布します。鋼球は 10m 程度の使用量を予め計量し、小分けしておくことをお勧めします。



- 3 鋼球を介しレールに設置した製品積載用鋼材に、コンクリート製品を順次荷降しします。この時コンクリート製品の下には絶対に入らないで下さい。



- 4 コンクリート製品を牽引等により滑走させ敷設します。必ずコンクリート製品の移動に並行して歩き異常を感じた際は停止して下さい。



- 5 配合 1 : 2 のモルタルミルクをコンクリート製品に設けた注入孔よりポンプ注入します。側面からのモルタルミルクの噴出しを確認して下さい。
- 6 設置完了。

工法構成例



レール及び製品積載用鋼材は不等辺山形鋼をお勧めします。レールに使用する場合はその端部にφ6程度の丸鋼を溶接することで鋼球のレールからの離脱を防止することができます。製品積載用鋼材は、レールに使用のものよりも1サイズ小さいものをお選び下さい。

牽引用ウインチの定格荷重は、製品重量の0.2倍を目安とします。

また、鋼球はその投影面積が散布面積の20%程度となるよう散布して下さい。

レール・製品積載用鋼材選定参考表

対応製品重量	レール用鋼材規格	鋼球散布面有効幅 (mm)	積載用鋼材規格
～4 t	L=125×75×7	102	L=100×75×10
4 t～10 t	L=150×90×9	123	L=125×75×10
10 t～	L=200×90×9	164	L=150×90×12

鋼球径選定参考表

対応製品重量	鋼球径		投影面積 (mm ² /個)	圧砕荷重測定値 (kN)
	インチ	ミリ		
～3 t	5/16	7.9375	49.46	90～110
3 t～10 t	7/16	11.1125	96.94	160～200
10 t～	1/2	12.7000	126.61	190～220

施工例

